

○この栽培こよみは、JA米生産基準を兼ねています。

月	5月		6月		7月			8月			9月			10月		
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
水管理				代かき	浅水たん水	間断かん水	中干し	間断かん水	たん水			間断かん水				落水
本田主要作業		土づくり		麦ワラのすき込み 耕起・代かき	基肥施用 麦ワラのすき込み	田植	除草剤散布			穂肥I施用	穂肥II施用	出穂期				成熟期
病害虫防除基準	<p>△補正防除 ●基本防除</p> <p>〔 〕内は対象病害虫を表す。</p> <p>● 防人箱粒剤(普) 50g/箱 ※播種時処理から出来ませぬ。 ※播種時処理から出来ませぬ。 ● プイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤(普) 50g/箱 ● トレボン乳剤(普) 1000倍 (カメムシ類は2000倍) ● ウンカ類・コブノメイガ(カメムシ類) ● オークストラロムダンモンカット粉剤DL 又は 3~4kg ● オークストラロムダンモンカットエア(普) 1000倍 ● ウンカ類幼虫・コブノメイガ・紋枯病 ● トレボン粉剤DL(普) 3~4kg ● カメムシ類・ウンカ類 △ スタークルメイト液剤10(普) 1000倍 △ アルバリン粉剤DL(普) 3kg △ コラトップジャンボP(普) 10~13パック △ ジャンボたにしくん(普) 1~2kg △ コラトップジャンボP(普) 10~13パック ● いもち病 ● スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) ● いもち病・コブノメイガ・ウンカ類</p>															

良質米生産重点事項

- 種子更新率 100%
- 栽培履歴の記帳率 100%
- 農産物検査の受検
- 麦ワラは土づくりのため全量すき込み

施肥基準 収量・品質向上、病害虫回避のため施肥基準を遵守しましょう。

- ◇土づくり
作物にとって土壌を良好な状態に保つため、有機物(堆肥や麦わら等)や土壌改良資材(粒状ミネラルG160kg/10a)を施用する。
- ◇麦ワラすき込み
①ワラは長めに切る②耕うん(荒起こし)は早めの時期に通常より深く耕す
③ごく浅水で代かきする④すき込み開始3年間は基肥10kg(一発肥料5kg)増肥する
- ◇本田施肥(10a当り)

前年の作付	基肥	穂肥I	穂肥II	基肥一発肥料
	ちくこのめぐみ444	8月4~6日 幼穂長2~3mm NK2号又はちくこのめぐみ444	穂肥Iの10日後	元ヒ一発1号
水稻	40kg	20kg	15kg	50kg
大豆・ハトムギ	30kg	20kg	15kg	40kg

※野菜後は地力が高まり肥料成分も残っているので、基肥一発肥料ではなく基肥を2~3割減肥し、穂肥は生育に応じて加減する。なお、葉色が濃い品種なので、穂肥の遅れや不足で葉色が低下すると、粒数が不足し収量が低下する。

品種特性

※福岡県における主要農作物の品種特性より

出穂期	成熟期	稈長	収量	耐倒伏性	いもち耐病性
8/25	10/8	75cm	566kg/10a	強	中

本田防除基準 農薬の安全使用基準を遵守しましょう。

薬剤名	使用量・希釈倍数	使用回数	散布時期	備考
防人箱粒剤	50g/箱	1回	播種時~移植当日	ウンカ類・コブノメイガ・いもち病 ※播種時とは覆土前のこと
プイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤	50g/箱	1回	緑化期~移植当日	ウンカ類・コブノメイガ・いもち病 ※緑化期とは被覆資材を取り除く以降のこと。
コラトップジャンボP	10~13パック	2回	葉いもちに対しては初発20日前~初発時、穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで	
オークストラロムダンモンカットエア	1,000倍	2回	収穫21日前まで	紋枯病・ウンカ類幼虫・コブノメイガ
オークストラロムダンモンカット粉剤DL	3~4kg/10a	2回	収穫14日前まで	紋枯病・ウンカ類幼虫・コブノメイガ
トレボン乳剤	1,000倍	3回	収穫14日前まで	ウンカ類・コブノメイガ、(カメムシ類は2000倍)
トレボン粉剤DL	3~4kg/10a	3回	収穫7日前まで	カメムシ類・ウンカ類・コブノメイガ
スタークルメイト液剤10	1,000倍	3回	収穫7日前まで	カメムシ類・ウンカ類
アルバリン粉剤DL	3kg/10a	3回	収穫7日前まで	カメムシ類・ウンカ類
ジャンボたにしくん	1~2kg/10a	2回	収穫60日前まで	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)。浅水管理にし、水の深い所に集中的に散布する。

「アルバリン剤とスタークル剤は同じ成分なので、使用回数は両剤合計して3回以内です」

除草剤基準

◇初期および初中期一発処理

除草剤名	10a当たり使用量	散布時期	備考
サラプレットKAI	1キロ粒剤	1kg	・散布時は水の出入りを止め、湛水状態で均一に散布 粒剤、フロアブル剤：水深3~5cm ジャンボ剤：水深5~6cm
	フロアブル	500ml	
	ジャンボ	10パック	
ウルティモZ	フロアブル	500ml	・散布後3~4日後は常時湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ・ウルティモZはコウキヤガラ等に安定した効果を示し、アゼガヤ等畦畔侵入雑草にも有効
	ジャンボ	10パック	

◇生育中期処理

○イネ科が多く残る場合

除草剤名	10a当たり使用量	散布時期	備考
クリンチャー1キロ粒剤	1.5kg	移植後25日~ノビエ5葉期、収穫30日前まで	湛水散布
クリンチャーEW	100ml	移植後20日~ノビエ6葉期、収穫30日前まで	湛水散布または落水散布。希釈水量25~100ℓ

○イネ科・広葉雑草がともに残る場合

除草剤名	10a当たり使用量	散布時期	備考
ワイドアタックD1キロ粒剤	1kg	移植後15日~ノビエ5葉期、収穫60日前まで	湛水散布
クリンチャーバスマE液剤	1000ml	移植後15日~ノビエ5葉期、収穫50日前まで	落水散布。希釈水量70~100ℓ
ロイヤント乳剤	200ml	移植後20日~ノビエ5葉期、収穫45日前まで	落水またはごく浅く湛水して散布(散布後3日以内に入水すると効果が高まる) クサネムに効果が高い、希釈水量25~100ℓ

※農薬を使用する際にはラベルに記載されている登録内容や有効期限を遵守してください。※農薬が圃場外に飛散しないよう風向きや吐出圧力に十分注意してください。

◆お問い合わせ先：三瀧町農業協同組合農産課(TEL 64-2213) または 久留米普及指導センター(TEL 0942-47-5101)

JA米とそれ以外を区分してJAに出荷しましょう。